

【2025 国際協同組合年】第 51 回広島県生協大会開催報告

誰もが安心してくらすせる持続可能な地域コミュニティの再生をめざして

広島県生協連は、11月1日（金）にて、第51回広島県生協大会を開催しました。会員生協役員、広島県協同組合連絡協議会等友誼団体、関係団体80名が参加しました。

岡村 信秀会長理事より、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことの意義、本日まで講演いただくテーマ「協同組合介護・医療および協働労働」について触れられ、被爆者の想いを継承し、誰もが安心してくらすせる社会づくりを進めましょうとの主催者挨拶がありました。続いて、来賓の広島県環境県民局 信夫 秀紀局長からご挨拶をいただきました。局長から地域貢献活動に対する感謝と、地域に密着した活動など期待の言葉が述べられました。



開会挨拶 広島県生協連
岡村 信秀 会長



開場参加者の様子



来賓挨拶 広島県環境県民局
信夫 秀紀 局長

今大会では、「なぜ今、協同組合介護・医療なのか—自分らしく生きるための協働を考える」をテーマとし、大阪大学大学院人間科学研究科 斉藤 弥生教授より「スウェーデンの包括ケア」「愛知県の南医療生協」「賀川豊彦の著書」「コープくらしの助け合い運動」等の例なども紹介され、協同組合医療・介護が生み出す社会的価値についてご講演いただきました。会場から理解を深める質問が出るなど参加者全員が熱心に聞き入っていました。

また、広島市「協同労働」プラットフォーム統括コーディネーター 高成田 健氏より「自分らしく働く「協同労働」が社会に広がる」をテーマに、協同労働という新しい働き方、地域の課題解決に向けての連携について、「労働者協同組合法」が施行されるまでの経過や地域生協及び医療生協との関わり等、多岐に渡る事例報告をいただきました。地域共生社会の実現に向けて、生協として今後の取り組みに対し大変参考になるご講演となりました。



大阪大学大学院人間科学研究科
斉藤 弥生 教授

続いて、岡村 信秀会長理事のコーディネートのもと、講演の講師をしていただいた斉藤 弥生教授・高成田 健氏のトークセッションを行い、「協同組合の本質と地域コミュニティの再生」について岡村会長理事から報告後、お二人の感想を出し合い、会場から広島市社会福祉協議会の活動について中田 真帆事務局長から報告があり、交流しました。



広島市「協同労働」プラットフォーム
高成田 健 統括コーディネーター



トークセッションの様子



広島市社会福祉協議会
中田 真帆 事務局長

アンケートでは「地域社会を包括的に持続可能なものとするために共生社会を位置付けることが大切だと思いました。」「協同して取組むということが今からの時代はより一層重要になると改めて感じた。」などの感想をいただきました。